

介護実習の内容及び特徴について

【内容】

介護の実体験を通して、領域「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」、「介護」の学習内容を統合させ、介護とは何かを理解する。そのため、これまでの学習の再確認を行い、それらを実践する基礎的能力を習得する学びの場とする。また、介護実践を通じて、専門職業人としての自己形成の場と位置付けている。

具体的には

- ・利用者の生活の場である多様な介護施設において、利用者の理解を中心に行う。併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、介護技術の確認等を行う。
- ・利用者の家庭を訪問して、訪問介護について理解を深める（職員に同行）。
- ・個別介護の実際を理解するため担当利用者を決定し、アセスメント、個別介護計画の立案、実施と評価などに取り組むとともに、多職種協働の実際を学ぶ。
- ・施設運営のプログラムに参加し、介護サービス全般について理解するとともに施設と関連する社会資源を理解し、地域社会における介護サービスの役割についても考える

【特徴】

- ・介護福祉士受験資格取得に加え、社会福祉士受験資格取得も可能となるよう、実習の期間は2年次の夏季、春季、3年次の春季、4年次の夏季に実施する。
- ・介護実習は初歩的な目標から少しずつ難易度を高め、段階的に学んでいくことができるようにⅠ～Ⅴに分かれており、それぞれの段階で事前指導・実習中の指導・実習後の指導を行う。
- ・実習先への配属後は、本人の希望を参考に、履修状況や面接を経て決定している。
- ・実習先への配属決定後は、実習連絡協議会における実習指導者との協議や施設への事前訪問を通して、実習計画の作成および指導を行う。
- ・実習中の指導は巡回指導や帰校日指導を行うことで、実習状況の把握や個別課題に対する指導、支援を行う。
- ・実習Ⅴでは担当利用者への「アセスメント、個別支援計画立案、実施と評価（介護過程）」に関する学びがある。限られた実習期間（22日間）で最大限の学びが可能となるよう、あらかじめ学内での事前学習において個別支援計画立案（仮）の実施に取り組む。
- ・介護実習Ⅴ終了後は、実習での学びを総括した報告書作りと、担当利用者への支援「個別支援計画立案および実施・評価（介護過程）」の結果について発表を行い、専門的知識と技術の統合を図る。